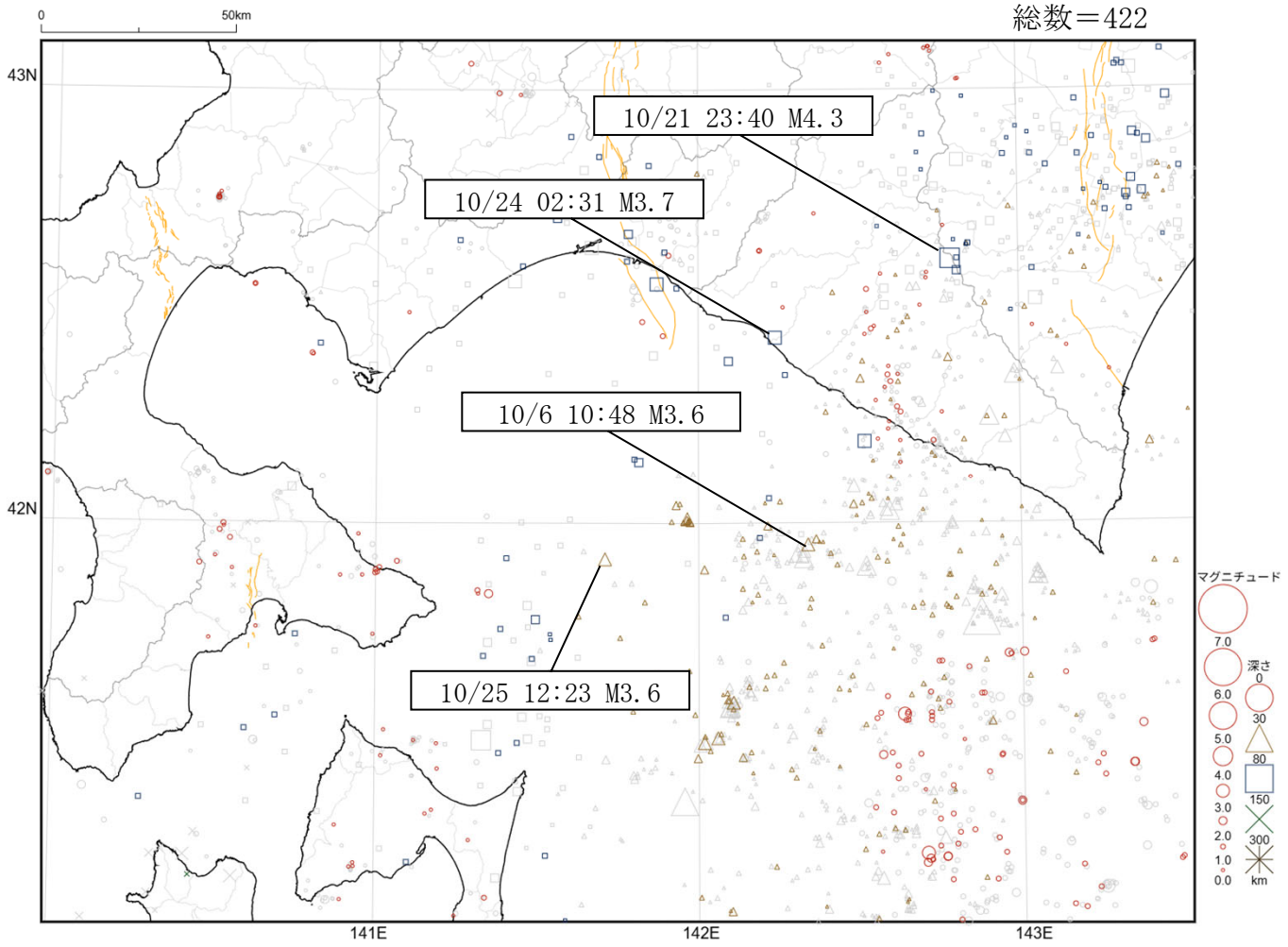
胆振・日高地方の地震活動図

2026年10月

室蘭地方気象台

震央分布図



・図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
・過去の地震と比較するため、前３ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
・本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

地震概況（2026年10月）

この期間、胆振・日高地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は6回（9月は5回）で主な地震は以下のとおりです（「胆振・日高地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

6日10時48分、浦河沖の地震（M3.6、深さ69km）により、むかわ町、新ひだか町で震度1を観測しました。

21日23時40分、日高地方中部の地震（M4.3、深さ97km）により、厚真町、むかわ町、平取町、新冠町、新ひだか町で震度2を観測したほか、胆振・日高地方の5町で震度1を観測しました。

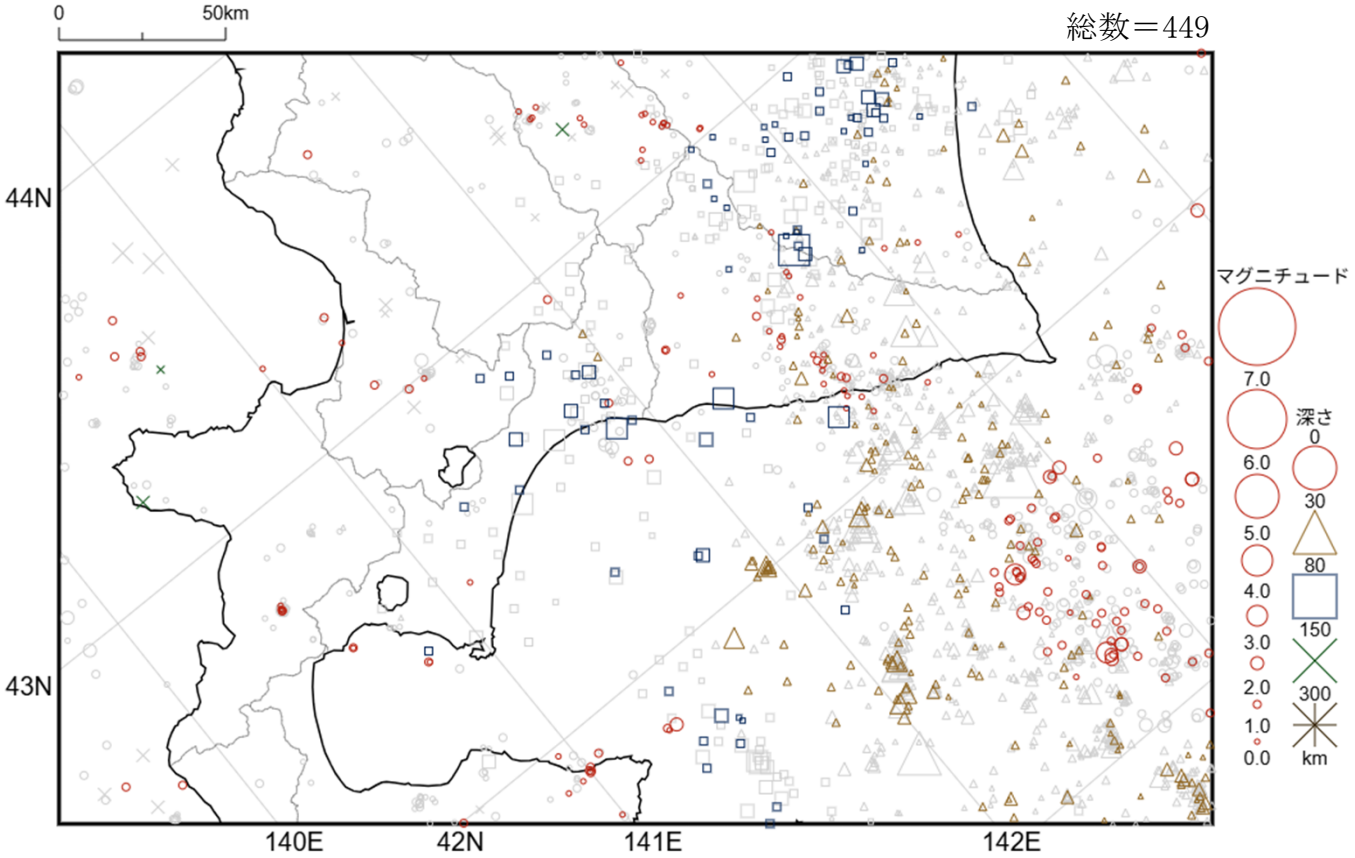
24日02時31分、日高地方中部の地震（M3.7、深さ95km）により、胆振・日高地方の6市町で震度1を観測しました。

29日08時13分、釧路地方中南部の地震（M4.6、深さ122km、震央分布図の範囲外）により、浦河町、えりも町で震度1を観測しました。

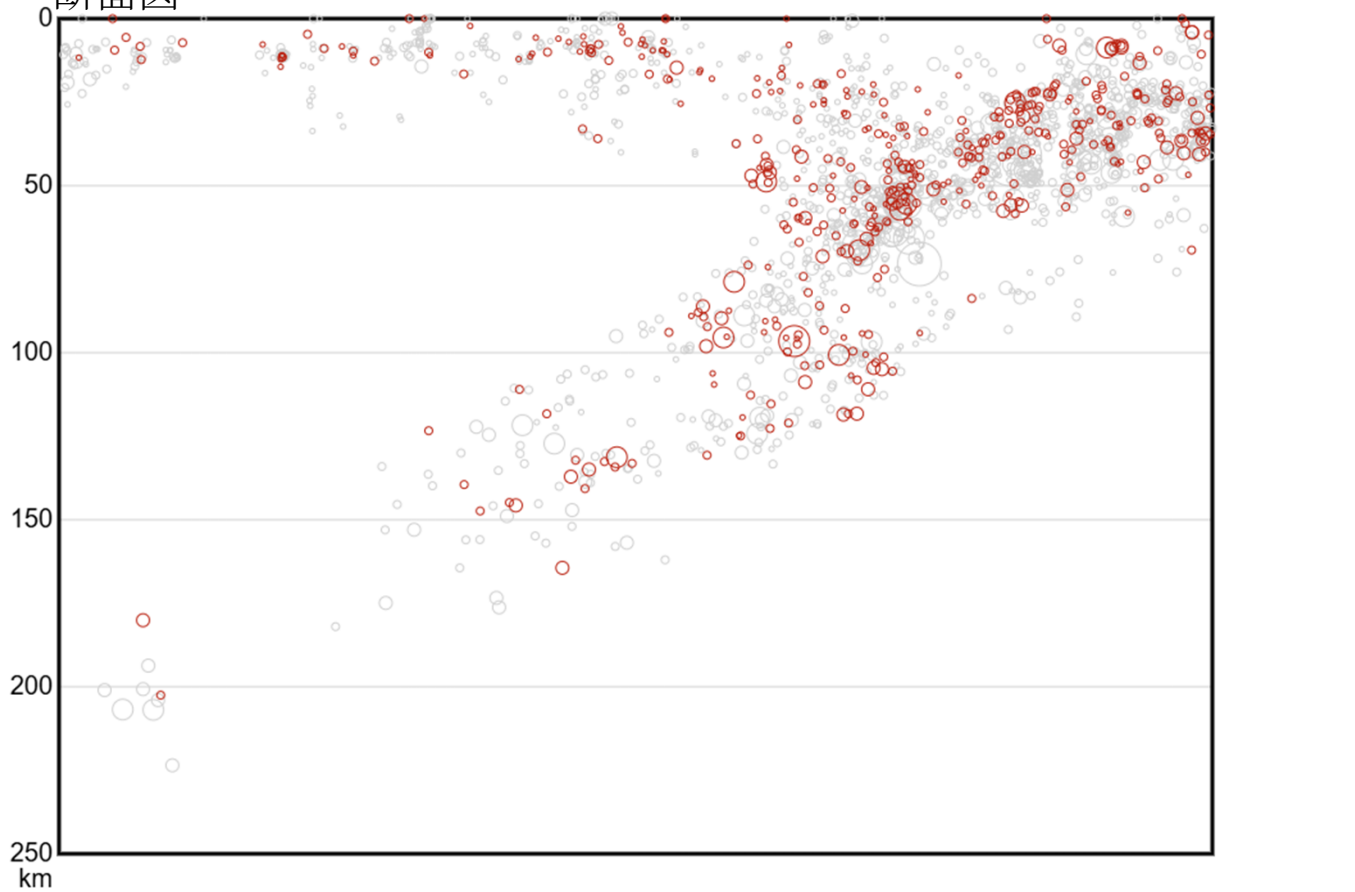
この活動図は、室蘭地方気象台のホームページに掲載しています。
https://www.data.jma.go.jp/muroran/
この資料に関する問い合わせ先　室蘭地方気象台　TEL　0143-22-4249

2026年10月

震央分布図



断面図

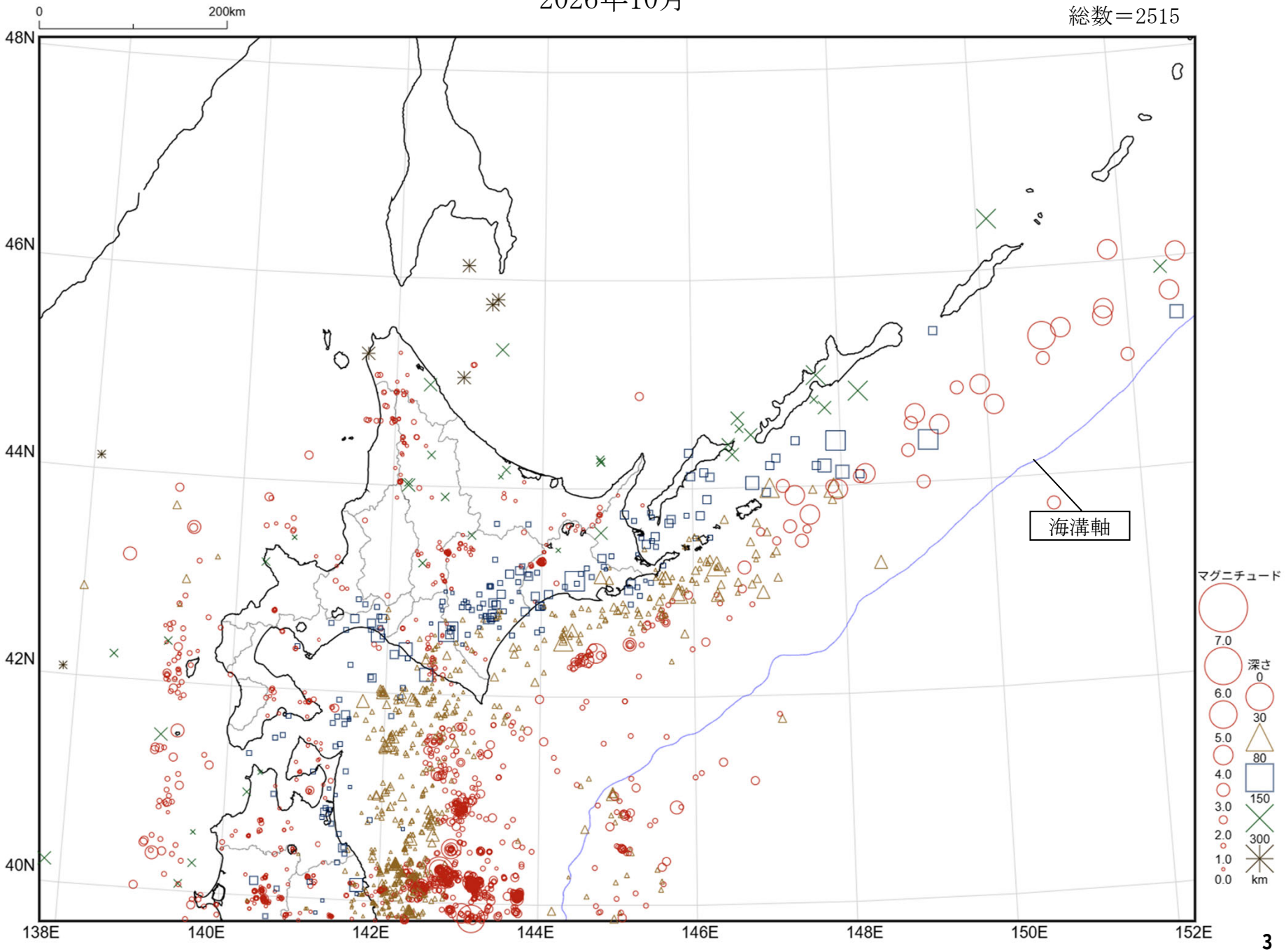


北海道の地震活動図

震央分布図

2026年10月

総数＝2515



胆振・日高地方で震度１以上を観測した地震の表
（2026年10月）

	年　月　日　時　分　震央地名　北緯（N）　東経（E）　深さ（ｋｍ）　規模（M） 地方　震度　震度観測点名
1	2026年10月 6日　10時48分　浦河沖　41° 57.0′ N　142° 20.3′ E　69ｋｍ　M3.6 胆振地方　震度１　むかわ町松風＊(05) 日高地方　震度１　新ひだか町静内山手町(07)
2	2026年10月12日　12時44分　釧路沖　42° 32.2′ N　144° 17.5′ E　69ｋｍ　M4.0 日高地方　震度１　えりも町目黒＊(08)
3	2026年10月21日　23時40分　日高地方中部　42° 36.6′ N　142° 47.2′ E　97ｋｍ　M4.3 胆振地方　震度２　厚真町鹿沼(15)　むかわ町松風＊(15) 震度１　白老町竹浦(09)　安平町早来北進＊(13)　安平町追分柏が丘＊(12) むかわ町穂別＊(12) 日高地方　震度２　平取町振内＊(17)　新冠町北星町＊(16)　新ひだか町静内山手町(16) 震度１　日高地方日高町門別＊(13)　平取町本町＊(05)　新ひだか町静内御園(08) 新ひだか町静内御幸町＊(13)　新ひだか町三石旭町＊(13)　浦河町野深(13) 浦河町潮見(12)　浦河町築地＊(14)　様似町栄町＊(06)
4	2026年10月24日　02時31分　日高地方中部　42° 25.7′ N　142° 14.3′ E　95ｋｍ　M3.7 胆振地方　震度１　室蘭市寿町＊(07)　白老町竹浦(08)　厚真町鹿沼(10)　安平町早来北進＊(07) 安平町追分柏が丘＊(07)　むかわ町松風＊(10) 日高地方　震度１　日高地方日高町門別＊(05)
5	2026年10月25日　12時23分　苫小牧沖　41° 55.0′ N　141° 42.5′ E　79ｋｍ　M3.6 胆振地方　震度１　白老町竹浦(07)
6	2026年10月29日　08時13分　釧路地方中南部　43° 06.9′ N　144° 26.1′ E　122ｋｍ　M4.6 日高地方　震度１　浦河町潮見(11)　浦河町築地＊(07)　えりも町目黒＊(06)　えりも町えりも岬＊(06)

＊のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。
（　）内の数値は0.1単位の詳細な震度（計測震度）の小数点を省略して表しています。

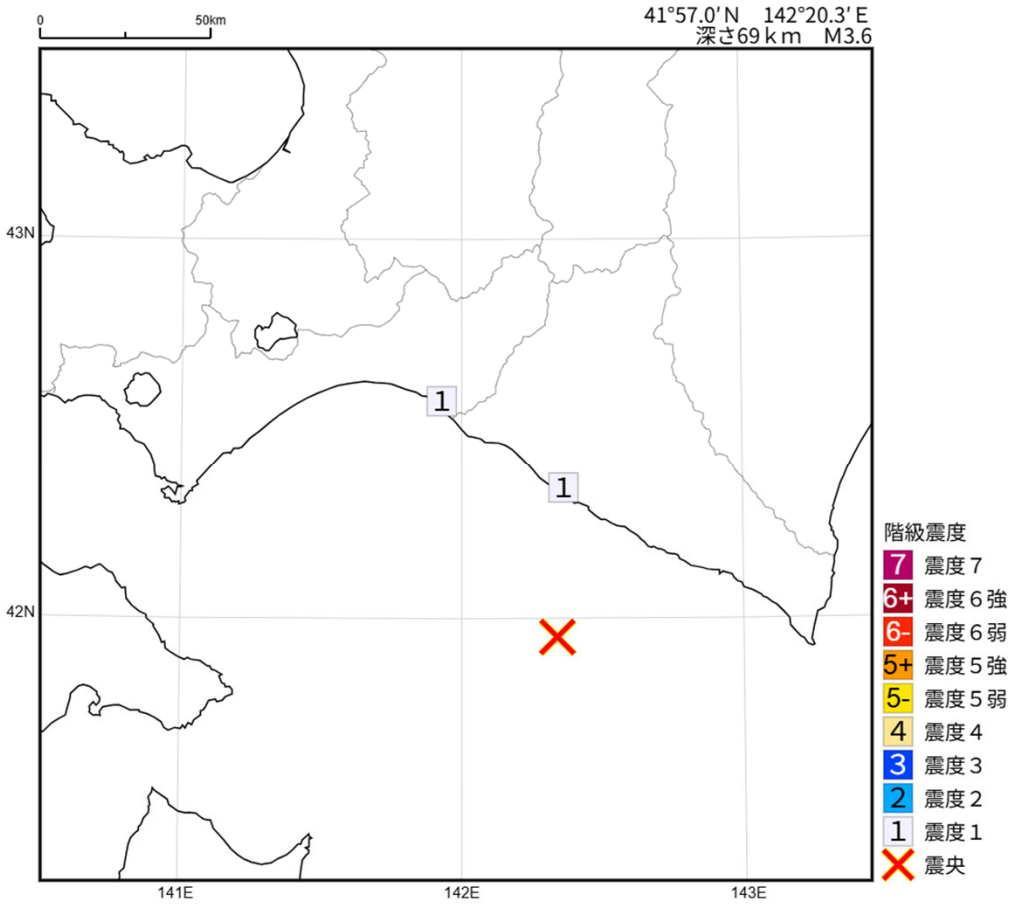
計測震度と震度階級の関係

計測震度	～0.4	0.5～1.4	1.5～2.4	2.5～3.4	3.5～4.4	4.5～4.9	5.0～5.4	5.5～5.9	6.0～6.4	6.5～
震度階級	0	1	2	3	4	５弱	５強	６弱	６強	7

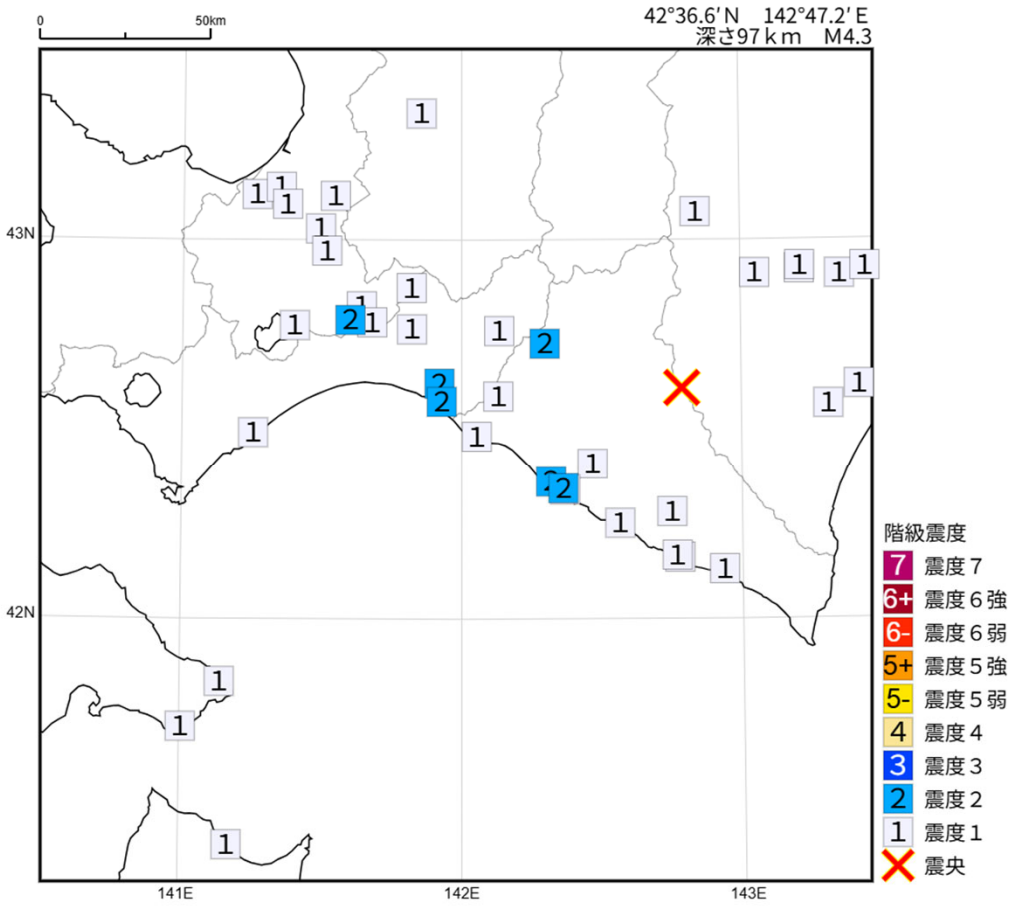
本資料の利用にあたって

・本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

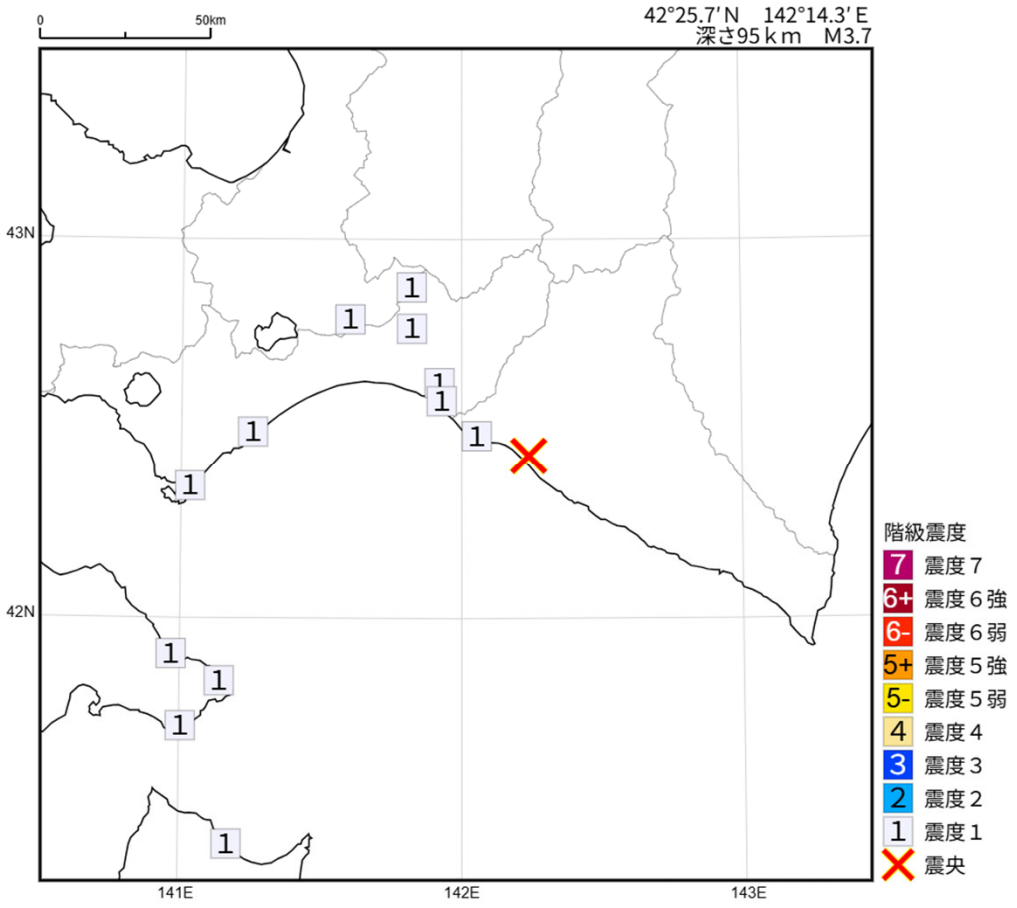
2026年10月 6日　10時48分　浦河沖の地震の震度分布図



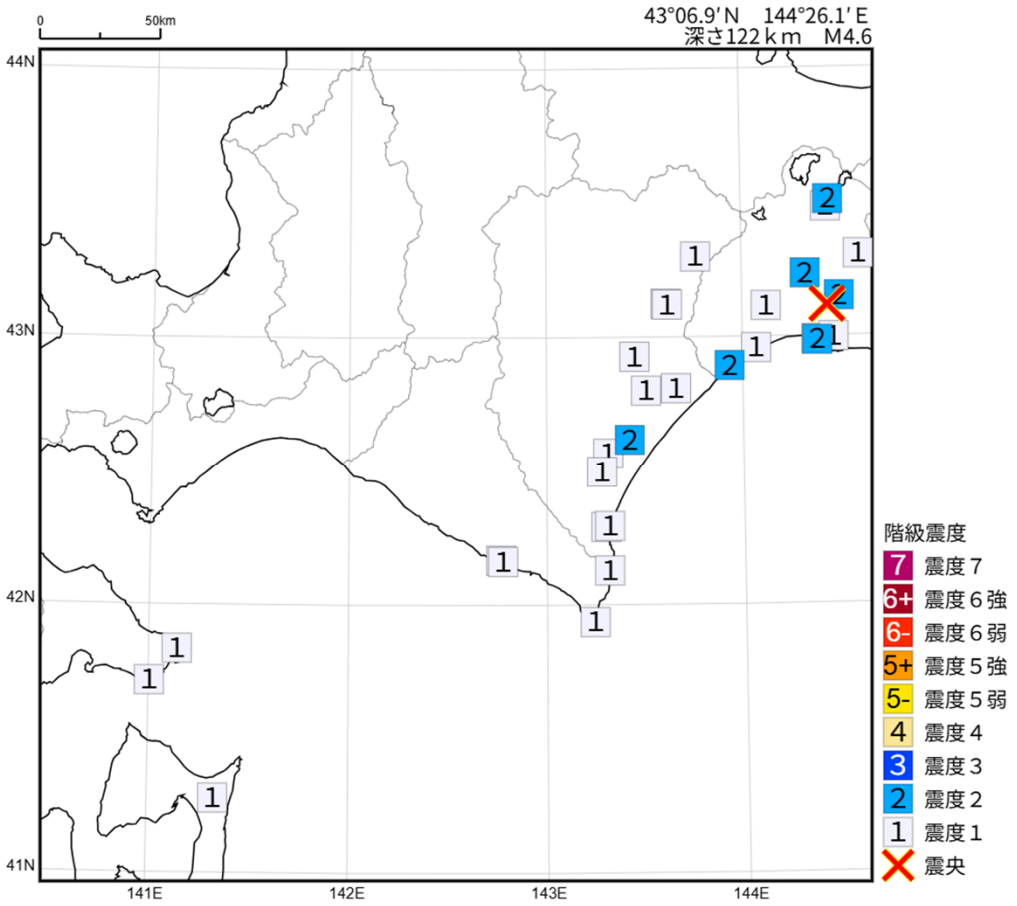
2026年10月21日　23時40分　日高地方中部の地震の震度分布図



2026年10月24日　02時31分　日高地方中部の地震の震度分布図



2026年10月29日　08時13分　釧路地方中南部の地震の震度分布図



【防災メモ】
～陸域の浅い地震～

地球の表面は十数枚の巨大な板状の岩盤(プレート)で覆われており、それぞれ別々の方向に年間数cmの速度で移動しています。

日本列島周辺では、複数のプレートがぶつかり合うため、大きな力がかかり岩盤にひずみが蓄えられます（図１）。そのひずみが限界に達したとき、岩盤が急速にずれ動きます。これが地震です。

地震は、海溝沿いのプレート境界や海のプレート内部で発生する「海溝型地震」のほか、陸域の浅い所（深さ約 20km より浅い所）でも発生します。

これを「陸域の浅い地震」と呼びます（図 2）。

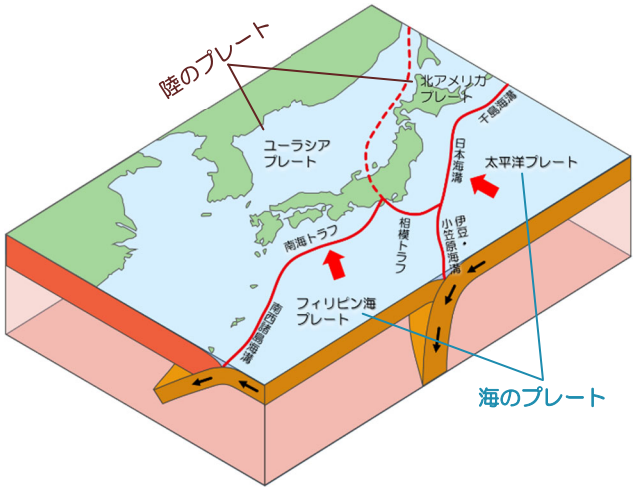


図１　日本列島周辺のプレート

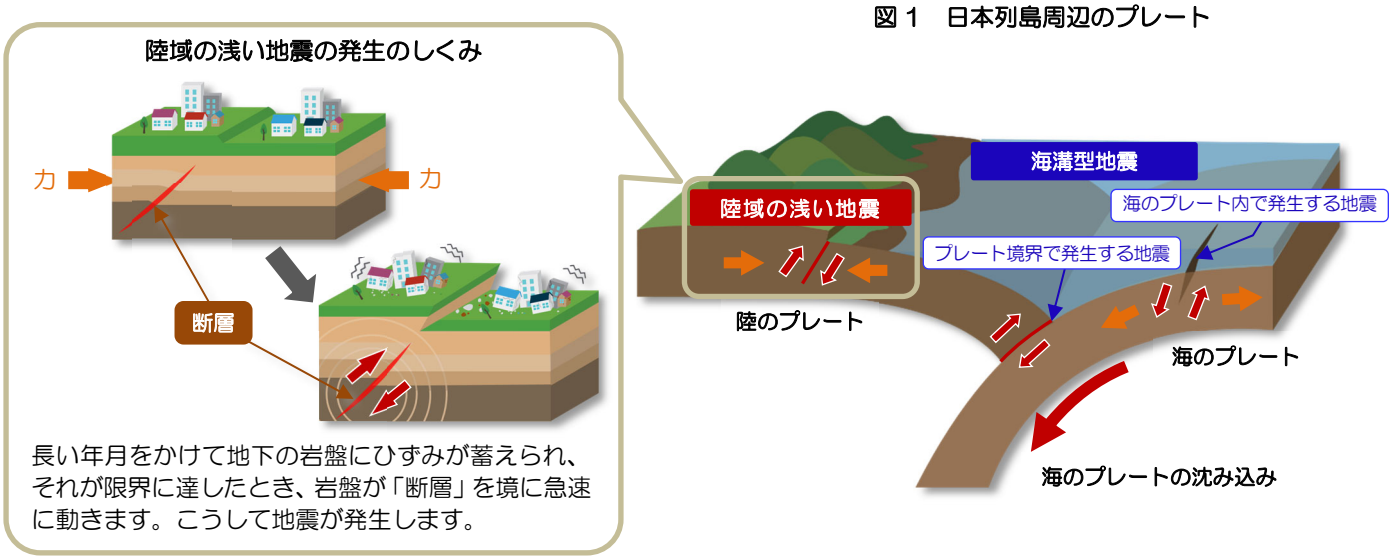


図２　日本列島周辺で発生する地震のタイプ

「陸域の浅い地震」は、海溝付近で発生する巨大地震と比べると規模が小さいことが一般的です。しかし、地震が発生する場所が浅い場合には揺れが大きくなりやすく、そこに人が住んでいると、マグニチュード 5～6 程度の地震であっても大きな被害をもたらすことがあります。

例えば、「平成 30 年北海道胆振東部地震」はマグニチュード 6.7 と、「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」のマグニチュード 9.0 に比べて地震のエネルギーは 2800 分の 1 でしたが、最大震度は同じ震度 7 を観測しました。この強い揺れで、大規模な土砂崩れにより多くの人命が失われ、また、強い地震動や地盤の液状化による住家倒壊などの大きな被害が生じ、北海道内のブラックアウト（大規模停電）をも引き起こしました。

地震はいつ起きるかわかりません。陸域の浅い地震など震源に近い地域では、緊急地震速報が間に合わず、発表前に強い揺れに見舞われることもあります。突然の揺れに備えて日頃から家具の固定や身の安全を図る行動の確認をしておきましょう。